

第 2 回
富士市総合計画審議会 第 3 分科会
議事録

令和 3 年 5 月 1 9 日(水) 午後 7 時 0 0 分～

富士市役所 8 階 政策会議室

【基本目標5 活力を創り高めるまち について】

- 加藤会長 事務局からの説明が終わったので審議に入りますが、前回同様に政策分野ごとに審議していきたい。
まず、政策分野3「農林水産業」についてご意見ご質問等ありましたら、お願いします。
池田委員お願いします。
- 池田委員 先日、東部地区管内で熊が出没したこともあり、近年、鳥獣被害が増えているので、「現状と課題」に「鳥獣被害」を位置付けるとともに、「基本方針」、施策の2「生産基盤の保全・拡充」において「鳥獣被害への対策」を記載してもらいたい。
また、施策の1「地場製品の生産支援と付加価値の向上」において、「梨、キウイフルーツなど」が位置付けされているが、他にもブルーベリーや柑橘類もあるので、記載してもらいたい。
さらに第五次富士市総合計画では、「地産地消」を記載しているが、引き続き取り上げていただけるとよいと思う。
- 加藤会長 事務局お願いします。
- 事務局 「鳥獣被害」、「ブルーベリー、かんきつ類」については、ご指摘いただいたとおり、記載について検討させていただく。また、「地産地消」については、位置付ける箇所も含め検討させていただく。
- 加藤会長 池田委員よろしいでしょうか。土屋委員お願いします。
- 土屋委員 グラフ、写真が目につくが、「バスツアーの立ち寄り件数」については、直接、施策等に結びつくものが見当たらないので、施策に該当するものが無いのであれば、グラフを変えた方がよいのではないかと。
池田委員からもご指摘があったが、「地産地消」、「安全・安心の食」、「六次産業化」、「食育」は、ここ10年間の農業政策においても叫ばれてきたと考えているが、「現状と課題」、「基本方針」などから抜けているので、見直しをした方がよいのではないかと。
次に、施策の1「地場製品の生産支援と付加価値の向上」の3つ目に「首都圏の工務店等」とあるが、わかりにくいので「住宅会社等」と分かりやすい形に変更した方がよいのではないかと。

次に、施策の 2「生産基盤の保全・拡充」の中で「耕作放棄地の解消」とあるが、どのように解消を図るのか不明であるため、施策の 3「担い手の確保・育成」において、新規就農者の参入等により耕作放棄地の減少を位置付けた方がよいのではないか。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 まず、「バスツアーの立ち寄り件数」については、本市の農林水産物を目的に観光客がどの程度来訪されているかをお示ししたグラフであるが、委員ご指摘のとおり、現状と課題、基本方針、施策に直接関連した記載がないので、現状と課題にあったグラフを再度検討する。

「地産地消」、「安全・安心の食」・「食育」などの記載については、「食育」は別の施策において記載しているが、「地産地消」、「安全・安心の食」と合わせて記載を検討する。

「工務店等」の記載については、担当課に内容を確認し、わかりやすい形に修正する。

「耕作放棄地の解消」については、施策の 3「担い手の確保・育成」にも記載していたが、施策の 2「生産基盤の保全・拡充」と内容が重複していたことから、「耕作放棄地の解消」を目的とした取組を位置付けている施策の 2「生産基盤の保全・拡充」の「優良農地の創出」に位置付けた。再度、担当課に確認する。

加藤会長 土屋委員よろしいでしょうか。深澤委員お願いします。

深澤委員 重複するが、「地産地消」という言葉がなくなったのはどうかと思う。「富士ヒノキ」においても市内でも消費する施策があるので、「地産地消」については掲載をお願いしたい。

加藤会長 壽福委員お願いします。

壽福委員 「地産地消」について別の施策で記載があるということだったが、給食に「田子の浦シラス」が出るということは、地域のおいしいものが使われ、子どもたちにとっても大変ありがたいことだと考えている。神奈川県でも子どもに対して力を入れるのは、それを目的に移住してくるためであるという話を聞くので、食育と合わせてPRしていただきたい。

また、現状と課題の3つ目において「担い手の安定経営や新規参入者の確保」とあるが、「担い手の安定経営」という言葉が突然出てくる感じがするので記載を検討してもらいたい。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 「地産地消」については、他の委員からのご指摘もあるので、位置付ける方向で検討する。

また、「担い手の安定経営や新規参入者の確保」については、時系列的にも「新規参入者の確保」が先あって、次に「安定経営」の支援があるので、記載を変更する。

加藤会長 そのほか、ご意見ありますか。オンラインの方もよろしいでしょうか。それでは、「政策分野4 中小企業等振興」について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。深澤委員お願いします。

深澤委員 「将来のまちの姿」、「成果目標」の「活躍し続けられるまち」の主語がないのでわかりにくい。どのようなまちを目指しているのか。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 事務局の修正案として、「活躍し続けられるまち」の前に「だれもが」を挿入することを考えている。

ここでは、市内企業の99.7%を占める中小企業が地域経済の原動力となり、地域経済が発展し、市民誰もが活躍できるまちを目指す姿としている。修正し、次回、お示しする。

加藤会長 深澤委員よろしいでしょうか。それでは、土屋委員お願いします。

土屋委員 今、雇用でいうと「高齢者」、「女性」、「障害者」、「外国人」の就労支援が課題であると思うが、他の施策に位置付けているユニバーサル就労においても、「女性」や「外国人」への支援が読めないと感じた。過去にもGDPを維持するためには、外国人を入れるか、女性の就労率を上げるかという議論があったと思うので、何かしらを入れた方がよいのかと思う。

また、「技術の伝承」というのが、高齢化が進む中では重要だと考えている。
また、「事業承継」についても商工会議所などで取り組んでいるのでその辺
の記述を入れた方がよいのではないか。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 施策の2「雇用及び就労への支援」では、「高齢者」、「女性」について記載
をするかという議論は庁内でもあったが、通常の支援や、「ユニバーサル就
労」においても対象を限定せず、全体的に雇用及び就労支援をしていく記
載とした。

このため、「高齢者」、「女性」の記載は特段記載していないが、今回、ご意
見をいただいたので、記載について、再度担当課と調整を行う。

また、「事業承継」については、施策の1「経営基盤の強化及び起業・創業
支援」において「事業継承など」と記載しており、「など」の部分で「技術
の伝承」を含んでいると解釈している。

こちらについてもご意見をいただいたので、再度、担当課に確認し、検討
する。

加藤会長 土屋委員よろしいでしょうか。

お二人から手が上がりましたが、まずは会場から意見を伺いたいと思いま
す。片山委員お願いします。

片山委員 「労働力不足」は、賃金などの中小企業の維持にも係わってくると思うの
で、施策の3「労働環境の充実」の中に、そのような記載を入れた方が現
実的ではないかと思う。

主体となっていく場合は、市としても支援していくのかお聞かせいただき
たい。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 市としても直接的に賃金に対しての支援は難しいので、総合計画に位置付
けることは考えていない。しかしながら、中小企業等への支援により企業
業績等がよくなれば、賃金にも好影響が出てくるものと考えている。

申し訳ないが、2つ目の主体について再度ご説明をお願いしたい。

片山委員 例えば基本方針の3つ目にある「個々のライフスタイルに合った働き方等

に係る啓発を進める」について、市が主体となって、企業の底上げを行って行くのか。それとも企業が個別に従業員などに対して行うものなのか教えてほしい。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 「個々のライフスタイルに合った働き方等に係る啓発を進める」については、テレワークのような環境を整える必要があるものは、市が企業に対しても行って行く。また、キャリアデザイン力の向上を図るセミナーなどは、市が就労者に対して行う。

加藤会長 片山委員よろしいでしょうか。それでは井戸委員お願いします。

井戸委員 施策の3「労働環境の充実」の2つ目で「生活環境の改善に資する取組を実施するなど、就労者の福利厚生の実施を支援します」という内容が理解できなかったもので、どういう意味か。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 市内中小企業では、単独で社員の福利厚生事業を実施するのが難しい状況にあるため、市が団体等を支援し、住宅取得等の福利厚生事業を支援しており、このように取組を表したものであるが、確かにわかりにくいので、修正を検討する。

加藤会長 井戸委員よろしいでしょうか。壽福委員お願いします。

壽福委員 施策の3「労働環境の充実」における「生活環境の改善に資する取組」とあるが、親の介護で働けないという女性も多い状況にある。企業では介護休暇などもあるが、市の（介護に係る）申請が間に合わないなどの課題があるので、この辺りをスムーズにいくよう改善していけば、「労働力不足の改善」や「生活環境の改善」にも資するのではないか。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 女性の就労については、委員からの指摘もあったので、検討する。また、介護等の課題については、担当課に意見があったことを伝える。

加藤会長 以上で基本目標5の審議を終了します。

【基本目標6 魅力を活かし人と人を繋ぐまち について】

加藤会長 それでは、基本目標6の政策分野1の観光について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。
片山委員お願いします。

片山委員 施策の1の「富士山活用の推進」の2つ目で富士山百景写真コンテストや富士山百景写真展とあるが、この事業は広域的なPRに関わってくるのかどうかや、どういう範囲で行っている事業か教えてほしい。

富士山・観光課 富士山百景写真展に関しては、コロナの影響もあり、開催できないところもあるが、東京、大阪、名古屋など、コロナ前までは作品展を行っていた。今年度については、富士川楽座で開催している。

加藤会長 よろしいでしょうか。他にご意見、ご質問はありませんでしょうか。
土屋委員お願いします。

土屋委員 まず、基本方針の2つ目で、「本市や周辺地域の観光資源の活用を図ります」とあるが、文言としては、「広域連携を強化して地域内、域内の回遊性を高めます」という方がいいのではないか。
2点目として、P67にある施策で外向けのキャンペーンやPR活動というのは、私たち富士山観光交流ビューローで請け負って実施しているが、主な構成事業として富士山観光交流ビューローの支援事業を位置づけるよりも、PRや誘客事業を記載した方がよいのではないか。
3点目として、施策の2「観光資源の活用」の2つ目で、「地域全体で観光産業を底上げできるよう」という記述があるが、今までは観光というと「おもてなし」などきれいな言葉で表されるところがあったが、観光産業として儲かるようなことをしていくという表現はあまりなかった中で、こうした言葉が入っているというのは、非常によいことであると感じる。こうした中で、記述の順番を逆にして、「民間主体による観光事業の創出や活性化を図り、観光産業の底上げをしていく」という方が流れがよいように感じた。
最後に、観光を広く捉えるか狭義に捉えるかで違うと思うが、新富士駅の

乗降客数の約8割方はビジネスマンである。観光を広く捉えるならば、ビジネスによる来訪者に対する取組を打ち出し、仕事が終わった後、夜に街へ出ていただくことや、翌日周辺に出かけていただくことをしていくことで、富士市の観光を拡げていくことになると思う。施策の方向性の中でそのような言葉を盛り込むと、産業都市・富士市の都市型の観光の充実に繋がるのではないかと感じた。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 まず、基本方針の2つ目で、周辺地域の観光資源の活用では、観光交流ビューローをはじめ、周辺市町の観光協会の皆さんは、コロナ禍の中でも、取り組んでいただいていることは承知している。こうした中で、今後の広域連携は非常に重要な部分であり、富士市では周辺地域の観光資源と有機的に結びつけて推進していくことは、今後のポイントになると考えており、記載については、担当課とともに検討する。回遊性というキーワードもいただいたので、こうした言葉も盛り込めるか考えていきたい。

2点目については、外向けのPRということで、記述については考えていきたい。

3点目の観光資源の活用の2つ目の部分では、観光産業の底上げを文末にしてはどうかという提案であったかと思うが、これについても最終的に観光産業の底上げが大事ということもあり、観光事業を創出した上で観光産業を底上げするという順番がご指摘の通りのところもあるので、順番の変更を考えたい。

4点目のビジネス客の誘客についても、富士市のポテンシャルにもなるものと思っているが、こうした特色を出せるような文面も併せて検討したいと考えている。

加藤会長 よろしいでしょうか。他にご意見、ご質問はありますか。
深澤委員お願いします。

深澤委員 施策の3「観光インフラの整備」の2つ目で、「観光客の増加が見込める観光スポットの」という記述があるが、選択と集中という意味があるものなのか、ここまで強調して書く必要があるものか、ご一考いただきたい。
また、同じ施策の3つ目で、「国内外の旅行者が情報収集する最新の状況に応じ、」という文章の意味が理解しづらく感じた。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 1点目の「観光客の増加が見込める」という表現は、既存のスポットであったり、今後ポテンシャルがあるスポットであったりするところもあるが、観光スポットという言葉で包括できるところもあるので、言い回しについて考えたい。

2点目の「国内外の旅行者が情報収集する最新の状況に応じ」という部分の記述の意図については、国内外の方が今後5年間の中で、最新の情報収集ツールが出てくることもある。この5年の間でもSNSなど新しい情報発信ツールも出てきている。こうした情報を集めて観光に活かしていく、観光での来訪に活かしていくということが新たに生まれてくる可能性があるということで、こうした表現をしている。ご指摘の中では、少し理解しづらいところもあったかと思うため、言い回しをわかりやすくできるかどうか検討したい。

加藤会長 そのほか、ご意見ご質問はありますか。リモートの方もいかがでしょうか。

若尾委員 よろしくお願いします。

若尾委員 現状と課題の2つ目で、課題として、特定の季節やスポットに立ち寄るだけだが、通年において増加につなげていきたいことが挙げられているが、これに対する施策の2で、通年において観光客を増やすために、変化した点や意識された点はどういうところなのかニュアンス的に読み取れなかったもので、教えて欲しい。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 ご質問の「特定の季節やスポットに立ち寄るだけ」という傾向は、例えば、花のスポットの例をイメージしていただくと理解しやすいかと思うが、富士市の観光に関するデータによると、特定の場所で花の季節や旬のものがあるときに観光客が訪れるというところがある。こうした中で、今後どのように取り組んでいくのかということについては、「基本方針」でも、「産業資源や歴史・文化、自然、景観などの活用を図ります」と広く記述している。特に自然では、期間も限定される中で、今後、通年で安定的に観光客の方にお越しいただけるような魅力の創出も、富士市にいろいろな資源がある中で、何がよいかということも今後考えていく必要があるものと思

う。基本方針の中では広く捉えているが、幅広い富士市の魅力の中で、通年にわたって観光客を呼べるものを見出していきたいと考えている。

加藤会長 そのほかよろしいでしょうか。
それでは、政策分野2の「シティプロモーション」について、皆様からご意見がありましたらお願いします。

池田委員 移住定住相談件数のグラフが示されているが、確か2019年度では、富士市への移住者は100人を超える方がいて、県下で1位であったかと思う。相談件数の上昇に対して、実際に移住してきた方の数字と対比させると具体的でよいと感じた。
また、外へ出ると、意外と富士市の位置が知られておらず、浸透していないというところがある。観光のところにもあるが、SNSやウェブサイトなどで、こういった形で皆さんに知らせるのが大切であるように思う。発信はしていても受ける側がそこへと行かない限り、伝わらないと思う。例えば、駅のポスターにQRコードを入れて、かざすと富士山や富士市の概要が出てくるなど、いろいろな方法により工夫して情報発信をしていければよいかと思う。

加藤会長 事務局お願いします。

事務局 1点目の移住については、ご案内のとおり、富士市では令和元年度と平成30年度も県下では移住者数が一番多かったという状況であった。住宅取得の支援補助があり、移住促進に繋がっているなどの理由がある。移住の相談件数についても、住宅補助の相談や企画課の職員が首都圏へ出向いての相談のほか、各種補助金を通じて移住相談を受けることもある。こうした中、移住件数の表示が可能かどうかについては、実際にどのくらい結びついているのかという相関関係もあり、その数字が掲載できるか検討したい。
2点目のプロモーションに関する部分での富士市の認知度についてであるが、現在、認知度については、SNSなどのツールを使いながら、外部にも富士市がどこにあるかという認知度を図る取組を行っている。今、手元にそのデータを持ち合わせてはいないが、こうしたデータを取りながら、特に首都圏に対してどのくらい認知度があるかという取組も行っている。その一つの方法としてデジタルツールを活用するデジタルマーケティングという手法がある。PR動画を活用して外に発信し、それを広告的に使い

ながら、きれいな動画を見て富士市の魅力を再発見していただくような取組を始めたところである。委員ご提案のように、今後は新しいツールを使いながら、市の認知度を上げる取組を進めていきたいと思う。

加藤会長 ほかにご意見やご質問はありませんか。

井戸委員 同じく現状と課題のグラフであるが、できれば移住定住相談件数の推移は県内への移住定住相談件数と書いていただきたいと思う。理由としては、現状と課題の1つ目では、基本的には静岡から県外への転出の話で、現状と課題の2つ目では、東京中心ではあるが県内への移住についての話であり、逆のことを記述していることから、その方が書き方は親切であると考えられるためである。さらに、移住定住相談件数というグラフがあるのであれば、外へ出ていくというグラフもあると、現状とこれから目的とすることもわかりやすく示せると考える。

事務局 富士市に来られる方と、一方で富士市から出る方をグラフで対比させてはどうかのご提案であったかと思う。掲載しているグラフについては、移住で来られた方を示しているものであるが、外へ転出される方のグラフについては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中でいろいろなグラフを示していく予定である。

移住については、ある程度市の事業や取組によって転入されたというだけでなく、転入転出の理由も様々であるので、一概に比較しづらいところがある。グラフとしての性質が違ってくるところがあるが、ご指摘の点を踏まえ、事務局でも考えたい。

加藤会長 その他、ご質問ご意見はございますか。

若尾委員 井戸委員と同じく、現状と課題のグラフのところであるが、1つ目に対する課題感が捉えられるグラフがなく、「少子高齢化や進学・就職に伴う若い世代の市外転出が進む」ということを裏付けるようなグラフがあったらよいと感じた。

2点目として、基本方針と施策の1「まちのブランド強化及び愛着と誇りの醸成」では、ブランドメッセージの発信にとっても力を入れる取組が多いように感じる。写真にある富士青春市民の活動もシティプロモーション課では行っており、素敵な活動であると思うが、富士青春市民の文言がどこにも出てきていないので、どうして入っていないのかと思った。また、市

民の方が暮らしやすく生き生きと活動しているということも併せて発信していただけたらと感じた。

事務局 現状と課題の1つ目の内容を表すグラフについては、先ほどの井戸委員のご質問にも繋がってくるころだと思ふ。特に若い世代の市外転出について示せるグラフについてあるが、基本計画の中で該当するものはないが、別途「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中ではそうした現状について示していく予定である。そうした中で、若い世代の市外転出が進んでいることを課題として、どのように補足できるかについては、事務局でも再度考えたいと思ふ。

2点目の青春市民の件であるが、写真では富士青春市民ミーティングをシティプロモーション事業の中の大事な事業の一つとして掲載している。ブランドメッセージを強調した内容としているが、青春市民についても取り上げられるかについては、担当課とも検討したい。

加藤会長 その他、ご意見ご質問はありますでしょうか。
ないようですので、続きまして、政策分野3の「交流」についてのご意見・ご質問がありましたらお願いします。深澤委員お願いします。

深澤委員 前の計画でも観光交流というところで、交流と一つの事業が結びついている文言があった。今回の計画では、スポーツと芸術の交流、国際交流を位置付けているが、交流の分け方が難しい分野であり、苦勞をされたのではないかと感じている。こうした中で、現状と課題の1つ目の中では、「官民連携によるスポーツ交流の推進が求められています」としており、交流の分野であるので、交流という文言が入っているが、基本方針の1つ目と次のページの施策の1つ目では、スポーツツーリズムという観光的な要素が加わっている文言となっている。交流とツーリズムの文言の使い分けが難しく、そのような難しさもあってこういう表現になっているのかとも思ふが、交流とツーリズムの使い分けについて統一感という点でどうなのかなと感じた。

また、グラフでは、数字をつかむ上では、確かに補助金申請・交付の中で人数を把握できると思ふが、補助金の交付に対する人数以外のグラフがあれば、その方がよいと思ふ。他に人数を把握できるようなもの、参加者数というよりも宿泊者数のような数字になると、ここで示す内容と整合性が取れるのではないか。もし代替できるようなものがあれば、そちらを選んでほしいと思ふ。

事務局	<p>1点目の交流とツーリズムの使い分け、統一感の件であるが、確かに、最初の現状と課題では交流で、基本方針や施策ではツーリズムという文言となっており、観光の部分とも密接に関係してくるところである中、スポーツツーリズムでは、富士市のスポーツでの強みを活かして展開し、特に市外から人を呼び込みたいということで、ツーリズムという表現としているところである。ここでの交流とツーリズムの統一感については、担当課とともに再検討したい。</p> <p>2点目のグラフについてであるが、正直なところ、外からの来訪者や交流客の人数を数的に把握できるようなものが非常に少ないということがあ る。ご指摘を踏まえ、他に代替できるようなものがないかどうか再検討したい。</p>
加藤会長	他に何かご意見・ご質問はございませんか。
土屋委員	<p>質問というより感想ということになるが、この分野で、スポーツと文化については、40ページの基本目標2の政策分野5にある「市民スポーツ・市民文化」から繋がっていると思う。また、3番目の国際交流については、31ページにある基本目標1の政策分野4にある「多文化共生」と重なっている部分があると思う。こうした中で、どこを際立たせるのかということがもう少しあった方がよいのではないかと感じる。特に文化の部分でそのように感じる。スポーツについては、おそらくトップアスリートが参加する競技スポーツを通じた交流で、40ページの市民スポーツと区分ができると思うが、文化ではあまり記述の違いがないように感じたので、何か区別できるような文言や記述内容にした方がよいのではないかと感想を持った。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、こちらについては重複するような点があり、第2分科会においても、基本目標2で「文化・スポーツ」を位置付けており、基本目標6との差は何かとのご質問をいただいたところである。今回の基本目標6については、若者人口をはじめとした人口減少時代にあって、市の賑わい・活性化や市を元気づけていくために何をしたらよいのかを考え、市民の方だけでなく、外部の方との繋がりをつくっていくことが非常に大事になっていくのではないかと考え、位置付けたものである。</p> <p>こうした中、スポーツについては、強みとなる部分も進んでいるところであるが、文化についてもロゼシアターなどの強みがある。表記の部分についても違いがわかるようにしたほうがよいとお話をいただいたので、違</p>

いを際立たせることができるかどうか検討したい。

加藤会長 他に何かご質問・ご意見はありませんか。

片山委員 施策の3「国際交流の促進」の3つ目で、「東京オリンピックでのホストタウン等を通じ」と記載されているが、第六次総合計画がこの先しばらく続く中で、この表現がいいのかどう改めて考えた方がよいのではないかと感じた。直近ではよいかと思うが、長い計画としていくことを考えると、別の表現や言葉の方がよいのではないかという感想を持った。

事務局 ご指摘のとおり、東京オリンピックについては、現在、開催を不安視するようなご意見も強くなっているように感じているが、富士市としても、東京オリンピックを通じ、スイス、ラトビア、そしてモンゴルの国々とこれまでになかったようなご縁を作っていきたいと考えているところである。富士市がホストタウンでなくなることはなく、続いていくものであるので、このご縁を大事にして、少しでも富士市と海外都市との交流の扉を開けるような取組の実施や検討をしていきたいと思う。基本計画の5年間においても継続していくもので、市としても力を入れていきたいと考えている。

加藤会長 よろしいですか。他に何かありますか。

それでは、以上で質疑、ご意見を拝聴することは終了したいと思います。事務局は本日の審議内容を踏まえた検討をよろしくお願いいたします。